



奴隷より身を起こして

3月25日発売

ブッカー・T・ワシントン 自伝

ブッカー・T・ワシントン 著／佐柳文男・佐柳光代 訳／大森一輝 解説

◆四六判・270頁・定価2860円

100年前、彼は差別と貧困をどう乗り越えようとしたのか



20世紀初頭のアメリカ合衆国で最も著名な黒人だったワシントンの自伝。奴隷として生まれた少年が志を立て、苦学力行の末に成功し、白人上流層からも賞賛され受け入れられていく過程を、生き生きと語る。

黒人「保守派」の元祖と目される人物の自画像を通じて、読者は、差別に対する闘争と迎合の微妙な狭間を考えさせられるだろう。

本書は1919年（大正8年）の佐々木秀一による抄訳以来いくどか翻訳されてきたが、久しく入手困難な状況にあった。このたび清新な訳文と共に、大森一輝氏（北海学園大学）によるワシントンの評価・受容をめぐる充実した解説を付す。

【既刊書よび】

汝の敵を愛せよ M・L・キング／蓮見博昭 訳

私には夢がある M・L・キング講演・説教集 梶原寿監訳

アーバンソウルズ 黒人青年、宗教、ヒップホップ・カルチャー

オサジエフォ・ウフル・セイクウ著／山下壮起訳

◆四六判・定価1870円

◆四六判・定価2640円

◆B6変・定価2640円

● 1 月刊行

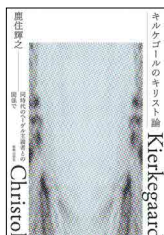
キルケゴールのキリスト論

同時代のヘーゲル主義者との関係で

鹿住輝之著

◆ A5 判・定価 4950 円

キルケゴールの体系批判は同時代のヘーゲル主義者に向けられていた。デンマーク社会の近代化に直面した彼らの対応の相違をキルケゴールのキリスト論に見出し、その理路を解明した俊英の力作。



● 1 月刊行

旧約聖書 預言書

要約と概説

宮平 望著

◆ A5 判・定価 2530 円

好評の旧約解説シリーズ第4弾。旧約の複雑多様な世界を読み進めるための絶好の手引き。本巻はイザヤ書からマラキ書までの17書を扱う。シリーズ全4巻完結！



● 10 月刊行

不安という相棒

四つのタイプとどう向き合えばよいか

フリッツ・リーマン著／赤坂桃子訳

◆ 四六判・定価 2970 円

不安は私たちの人生から除き去ることはできない。精神分析的視点から不安を四つのタイプに分類し、不安に対処し、良い人生を生きるために、より良い対処法を豊富な例証と共に記述。戦後ドイツのベストセラー。



● 10 月刊行

イザヤ書註解 I

1-10 章

ジャン・カルヴァン著／堀江知己訳

◆ A 5 判・定価 6820 円

イザヤ書註解は1551年に出版された、カルヴァンにとって初めての旧約註解である。精密かつ情熱的な記述から、改革者がヘブライ語の深い知識に基づいて、いかに真剣に預言書に取り組んだかが如実に伝わってくる。全5巻。



クリス・グリノフ著／薄井良子訳

クイア神学入門

〔仮題〕

レスビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー等々、ジェンダーやセクシュアリティの点で非規範的であることを表す「クイア」。それをめぐる多様な神学的冒険を平易に解説した画期的入門書。 四六判・予価2900円

ミロスラフ・ヴォルフ著／彦田理矢子訳

排斥と抱擁

アイデンティティ・他者性・和解についての神学的探求

異質な者を憎悪し、殺し排斥しようとする者を、私はどのようにして愛し抱擁することが可能なのか。暴力が猛威を振るう世界の中で和解の道はあるのか。凄惨な内戦を経験したクロアチア出身の著者は、この問題を探求した本書（1996年）を、自らの知的葛藤の記録であると同時に霊的旅路の記録とも呼ぶ。「クリスチャントゥデイ」誌が「20世紀で最も影響力のある100冊」に選んだ書の待望の邦訳。 A5判・予価7700円

マシュー・ホケノス著／穂田信子訳

マルティン・ニーメラー

ヒトラーに逆らった牧師

アメリカ人教会史家が冷静な筆致で著した最新の評伝。第一次大戦ではUボートの艦長として戦い、牧師に転身した後もおナシヨナリストで、当初はナチに共鳴したが、やがて批判に転じ、戦時下は強制収容所に囚われ、戦後はエキユメニカルな場で活躍した激動の生涯。 四六判・予価3500円

● 2月に出た本と雑誌

われら主の僕

リベラルアーツの森で育まれ

ICU伝道献身者の会編



国際基督教大学が献学以来数多くの伝道者を輩出してきたのはなぜか。その秘密を、70名余りの卒業生たちの、遺稿も交えて記される興味尽きない証しから探る。

◆ A5判・定価2310円

教会論と終末論

サクラメントと終末論を視野に入れた教会論

松田央著



キリスト教信仰の根本を、イエスの言行に現わされた福音を信じ、教会生活を通して信仰を實踐し、終末を待ち望むこと捉え、この道筋を聖書に即して分かりやすく解説。 ◆四六判・定価2200円

福音と世界

◆定価660円

3月号 反動

寄稿者…五井健太郎、長崎浩、平井玄、箱田徹、坪光生雄、安藤歴／川口葉子、山口希生、廣石望／連載 今高義也、後藤里菜、飯田華子、金歌昊、長尾優、C・J・サンダース & A・ヤーバー、山崎ランサム和彦

編集部から

● 昨年創刊100年を迎えた『カトリック新聞』から、先日休刊のお知らせが届いて驚きました。来年3月末をもって紙版の発行を停止するそうです。また同紙では菊地功大司教が日本カトリック司教協議会を代表して休刊の経緯を説明していました。理由の筆頭に挙げていたのは、やはり購読者の減少による経営困難です。これは定期刊行物をもつ出版社なら程度の差はあれ同じ悩みを抱えています。理由の第二は、21世紀に入ってからインターネットが報道の主役となりつつあることです。同紙は週刊新聞であり、教会情報・速報性を重視するならば、ネットのスピードは無視できないでしょう。事実、今後はインターネットでの発信に切り替えていくそうです。他方、小社の『福音と世界』は7千字程度の長文記事が主体の評論誌であり、短い記事による速報よりは、じっくり読まれることを想定していますので、紙媒体のほうが馴染みます。もともと、デジタルネイティブと呼ばれる世代が多数を占めるようになれば、紙のほうを読みやすいなどとは言っていただけなくなるでしょう。カトリックでは『カトリック生活』も2月に休刊となりました。紙の定期刊行物はいよいよ厳しい環境に置かれています。(小林)

販売部から

昭和天皇が亡くなる少し前、ニュースは連日天皇の容体を報じていました。輸血が必要になり、若い自衛隊員が献血に協力したとも聞きました。テレビはお笑いや賑やかな番組を自粛し、社会は一樣に重い空気に包まれていました。そんな折、弊社から『天皇の葬儀』が出版されました(笹川紀勝著、一九八八年)。図書目録の内容紹介には「象徴天皇制を真正面に据え、国民主義に立ちながら、天皇の葬儀で予測される事態を、大胆に歴史・憲法的視点から分析」と書いてあります。当時、キリスト教関係の取次会社に勤務していた私は、『天皇の葬儀』を一般の書店に流通させたいと思い、大手の取次会社に持ち込みました。しばらくして担当者から「引き取りに来てほしい」と連絡がありました。「危篤状態の天皇に対して『葬儀』とは何ごとか」ということらしいのです。A新聞社がそのことを聞きつけ、取材の依頼がありました。上司から「あまり変なことば言うな」と釘をさされ、結局記事にはなりません。象徴天皇は日本人の中心に位置する存在なのでしょう。キリスト教信仰はどのように対応していったらよいのでしょうか? 私は今も問い続けています。(金沢)

福音と世界

2024年
4

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料(送料共) 8760円

特集・復活と世界

——復活の社会化、共同化

旧約聖書の「復活」信仰について

——地上での回復あるいは再創造——金井美彦

新約聖書の復活と現代的適用——浅野淳博

再生への道

——言葉をとりもどすために——島しづ子

デンマーク国民教会の

「ディアコニア」から考える「復活」——森本典子

再起への約束

——教育現場における復活の意義——佐原光児

アスベンの黒人神学者——榎本 空

日本基督教団と北森神学 2 川口葉子

『日本におけるキリスト教フェミニスト運動史』

出版記念シンポジウム報告 大嶋果織

【好評連載】

◆ 八木重吉の聖書 10 今高義也

◆ 神と「女性的なるもの」を辿って 11 後藤里菜

◆ グレート小林と3人の女 12 (最終回) 飯田華子

◆ 私は告白する、私の神を 13 長尾 優

◆ 教会をけるマイクグレッシュン 24 サンダース、ヤーバー

◆ 新約釈義 ルカ福音書 28 山崎ランサム和彦

◆ 古代イスラエル文学史序説 37 勝村弘也